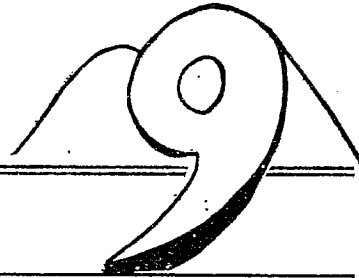


未来をひらく

竜爪山九条の会 会報



事務局 静岡市葵区古庄3-19-34 (五井卓 方)
電話 264-4918

2008年2月

発会1周年迎えた竜爪山九条の会

竜爪山九条の会は一昨年9月に発足のための準備会を開き、昨年2月12日に発会しました。発会のつどいでは、中世史の研究の第一人者でNHK「その時歴史は動いた」などテレビでおなじみの、小和田哲男静岡大学教授に記念講演をお願いしました。

竜爪山九条の会では、発会1周年を記念して、3月上旬に二つのイベントを、いずれもリンク西奈を会場におこないます。日本国憲法にもっともっと関心をもってもらい、平和の大切さを知ってもらう絶好の機会です。たくさんの方に参加してもらえよう、思い切って広く参加を働きかけていきましょう。

発会1周年記念 二つのイベント 入場無料

記念講演会 3月2日(日) 午後1時30分～

リンク西奈2階ホール 講師 レシャード先生(カレースの会理事長)

関研一さんの貴重な蔵書による戦争写真展

3月4日(火)～9日(日) リンク西奈展示ロビー

午前9時～午後9時(最終日9日は午後6時まで)

「竜爪山九条の会」の1年間の活動を もう一度ふり返ってみましょう

九条の会 第2回全国交流会で文書報告

11月24日 東京で二回目の「九条の会」全国交流会が開かれました。午後からは分散会に別れ、全国の活動交流がおこなわれました。竜爪山九条の会は残念ながら時間切れで発言できませんでしたが、文書で活動を報告しました。その内容はつぎの通り。

私たちの会は静岡市葵区の東部地域、小学校で6学区、約7万人の人口を抱える地域の九条の会です。2006年の春から結成の準備を始め、よびかけ人が50名を超えた9月に発足のための準備会を開き、2007年の2月12日に発会しました。中世史の研究の第一人者でNHK「その時歴史は動いた」などテレビでおなじみの、小和田哲男静岡大学教授を招いての発会のつどいでは、会場近くの住宅に「憲法九条ほんとうに変えていいのですか？」というビラ1000枚を配るなど、市民へ参加を呼びかたところ、こういう集会は初めてという人たちを含め、120名を越える集会となりました。その後「よびかけ人」、「賛同者」を広げ、現在367名が参加しています。

運営は13人の世話人会と8名の事務局が担当しています。地元の保守派・無党派といわれる人たちにも、その人たちの考えや立場を尊重しながら、「この運動は文字通り“戦争だけはいやだ、憲法九条は大切”この一点で力を合わせましょう」と積極的に参加を呼びかけています。よびかけ人・賛同者には憲法を取りまく最近の情勢や、会の動きなどを掲載した会報が手渡しで届けられています。

ホームページも開設し、最新の情報を会の内外に知らせています。会のURLは<http://www3.pala.or.jp/ryusozan9/>ですが「竜爪山九条の会」で簡単に検索できます。なかなか好評です。どうぞ気軽にアクセスしてみてください。そしてご意見も！また、会への参加申込書には「参加の呼びかけ」とともに、地域別の最新のよびかけ人の名簿が届けられています。身近な名前を見て気軽に参加する市民も増えています。みんなで集まる場を時々持って欲しいという要望から、年4回ほど講演会や映画会を持つようにしています。初めて尋ねたお寺の住職さんから「お寺の研修会館を空いているときには自由に使ってくれ」という提案で、11月には、「日本国憲法」の上映会を行いました。会の財政ですが、会員制ではないので会費は徴収せず、募金と事業活動でまかなっています。現在収支は黒字ですが、運動と宣伝を大胆に広げるためにも、郵便振込を使って年末には参加者に直接募金を訴えてみようかと話し合っています。

(竜爪山九条の会事務局次長 三輪矩正)

漱石に学ぶ

昨年、漱石生誕140周年を迎え、地元東京・新宿区などではさまざまな記念行事がおこなわれました。小説家としての漱石が活躍したのは、今から100年ほど前のことです。ちょうど、日露戦争から第一次世界大戦にかけての戦争の時代。大逆事件があった時代、明治が終わって大正になった時代でした。わずか10年ほどの間に、漱石は多くの作品を書きました。それからすでに100年経っているにもかかわらず、漱石の言葉は今日でもけっして色あせていません。

『三四郎』で漱石は、ある男（じつは広田先生）にこんなことを言わせています。

「こんな顔をして、こんなに弱っては、いくら日露戦争に勝って、一等国になっても駄目ですね。(略)——これに対して三四郎は——「然しこれからは日本も段々発展するでしょう」と弁護した。すると、かの男は、すましたもので、「亡びるね」と云った。

国を守るとは、国民の生活を守ること、国民の豊かさを守ることであって、お国のために戦争することではない。漱石のするどい主張がみえてきます。

また漱石は当時国家主義の牙城のように思われた学習院においてさえ、『私の個人主義』と題する講演で学生達を前につきのように述べています。

国家的道徳というものは個人的道徳に比べると、ずっと段の低いもののように見える事です。元来国と国とは辞令はいくら八釜しくっても、徳義心はそんなにありゃしません。詐欺をやる、誤魔化しをやる、ペテンに掛ける、滅茶苦茶なものであります。だから国家を標準とする以上、国家を一団と見る以上、よほど低級な道徳に甘んじて平気でいなければならないのに、個人主義の基礎から考えると、それが大変高くなって来るのですから考えなければなりません。

死の二年前です。

戦前体制の復活が懸念される今、『美しい国』よりも『美しい人が住む国』を漱石ならこう言いそうです。そして、もし漱石が今、生きていたならば、九条の会の全国的リーダーの一人として、全国各地を講演で飛び回っていたかもしれません。

募金の訴え！

竜爪山九条の会は、みなさんのカンパなどで財政をまかっています、なかなか厳しい財政状況です。募金へのご協力をよろしくお願いいたします。

